

春から

夏へ

はぐるま

長らく「だより」で現状の報告を届けることができず、大変申し訳ありませんでした。

今年の春は、新型コロナウイルス感染症の対策で桜を愛でる余裕もなく、日常を保つことが精一杯でした。

季節は、すでに夏へと移り変わりましたが、コロナの緊張感からは未だに開放されず、長期戦の覚悟をしなければならぬようです。

急変する状況にどれだけ適切な対応ができるか、組織の修正力・実行力・結束力等が試されているように感じます。

仲間たちがこの困難な時期をどのように過ごしているかを
また社会福祉法人としての役割は何かをお伝えいたします

4月7日 「緊急事態宣言」が発令され、自粛を求められましたが、通常の運営が求められた事業は「支援の必要な高齢者や障害者」で、当法人も該当します。当初より施設を閉鎖することは不可能だと思っていましたので、関係者全員が感染しないで、この事態をどう乗り切るか、刻々と変わる社会情勢を見極めながら、速やかに対応策を講じていく必要があります。

厳しい現実、学校が閉鎖された時に、学童保育所の需要が高まり、三密の状態にもかかわらず、開所しなくてはならない状況に、指導員さんの、「覚悟をもって取り組む」という発言には胸が痛みました。この時、障害者施設の集団感染も報じられていたので、多くの関係者は同様の気もちであったと思います。

「感染防止対策」において外出の自粛は仲間たちの日常生活に、多大なる影響がありました。自主製品を地域の方たちに

お届けする、お店で販売する、バザーに出かけるなど、作業所の活動を縮小し、販売活動を中止とした結果、仲間の収入がなくなりました。

ホームから出る機会が少なくなり、土日の外出もできない状態は、仲間のストレスが一番かかったと思われます。ヘルパーさんたちの収入も減少する状況は、世の中の縮図が、ここにもあります。

この度の事で、私たちが指針としたことは、「規則正しい生活をおくる」事です。仲間たちの基本生活習慣は身についていたので、このような事態に遇っても大きく崩れることがありませんでした。少々のストレスも跳ね返せる力があるのだと思います。これは大変な強みだと改めて感じました。

現在関係者の感染はありませんが、基本的な予防策は数年単位で継続しなければならず、元の生活に戻すのではなく、はぐるまの新しい形や方法作っていかなくてはなりません。その時に仲間の強みが生かされてくるものと思います。

No.110

2020年6月12日

社会福祉法人
はぐるまの会

広報委員会

川崎市多摩区

菅馬場 1-18-17

TEL 044-946-1308

自粛といっても止まっていたわけではありません

はぐるま管工舎



管工舎では売り上げの多くを占めていた販売活動ができなくなってしまったので、それに代わる販路を探さなくてはなりません。その手始めとして今年度の計画にも入れていた作業所内の販売スペース作りに着手しました。店舗のレイアウトが得意な職員さんの助言、協力いただき、壁や看板は仲間たちで色を塗ったりして、内装はほぼ自力で、完成することができました。コロナが落ち着きましたら宣伝にも力を入れ「来てもらう」ことで地域との関りを作り上げていきたいと思っています。

また生産物にも変化が必要になってきています。コロナウィルスの流行前まではふきんがメインでしたが、販売ができないので、在庫が増えるばかりです。そこで仲間たちが持つ縫製の技能を活かし、マスク作りに挑戦しました。作り始めは初めての作業で戸惑いもありましたが、今ではだいぶ生産力がついてきました。地域の方たちもお店に立ち寄り、購入して下さる方が増えました。これからはワンランク上のデザイン性、機能性の高いマスクの開発を考えています。

新型コロナウイルスとの長期戦が予想されるなか、仲間の仕事や収入を保障していくために『変化と挑戦』が重要なキーワードとなっています。

(はぐるま管工舎 責任者 瀧島 亮)

はぐるま共同作業所



第一作業所は「パン・焼き菓子」の製造を主としています。

活動自粛期間中、生産活動では、①地域のバザー ②子育てサークルへの定期販売が休止となったため、地域の皆様に来店し

てもらいたいという気持ちを込めて

チラシを作ってポスティングしました。

その甲斐あって久しぶりにお越し下さったお客様、リピーターの方々が来店して下さり、「丸パン美味しかったよ」と、たいへん好評でした。

さらに、グループホームの朝食パンの生産を復活させたほか、母の日には、今年始めてブレゼント用パウンドケーキの生産を企画しました。職員の手助けがなくても生産できる仲間の得意なパウンドケーキもたいへん好評でした。

体力作りとしては、班ごと、個人の体力に合わせ、普段は1時間程度のジョギングやウォーキングを無理のない範囲で30分〜60分行い、ストレスを発散しながら作業を行っています。

(はぐるま共同作業所 責任者 石田 賢一)

第2 はぐるま共同作業所



第2作業所では、よみうりランド花ハウスの喫茶室が長らく自粛休業中となっています。

貴施設が高齢者介護施設ということもあり、はぐるまの会として再開の申し出をお願いすることも難しく、再開の目途はたっていないかもしれません。仲間たちが主体的に働くための場として考えると、年内の営業再開は難しいかもしれません。

そんな仲間たちの活動が一つ失われてしまっている苦しい状況の中ではありますが、今まで行事の練習や、夏の物品活動等で繁忙期に入ってしまった、毎年成果を残すことができず苦い思いをすることの多かった「ハーブ園」の活動に仲間たちとともに力を入れています。

コロナのことで仲間たちも外に出る機会が失われてしまっているなか、農作業で前向きに外に出る「今」があることに感謝し、毎日を一生懸命第2作みんなが汗だくになりながら活動しています。

(はぐるま第2作業所 責任者 石澤 幸樹)



新型コロナウイルス感染症対策 経過報告

闘いの始まり…

はぐるまの会では、新型コロナウイルスへの対応を令和2年1月より実施をしてきました。当初は、例年のインフルエンザへの対応と同様に「うがい・手洗いの徹底」にはじまりましたが、2月からは各種イベント・集会・クラブ活動・販売活動の中止、集団規模の縮小等、私達が大切にしてきた地域での暮らし全体を自粛し、仲間たち・ご家族の全面的な協力を得て、今日に至っております。

この度の緊急事態宣言下の厳しい自粛生活へのご協力をいただきました全ての関係者の皆様へ心からの感謝、御礼と共に、今後も長く続く闘いにご支援を賜りますようお願いを申し上げます。

当法人では、皆様にご協力をいただいていたこの期間を活用し、「はぐるまの会 新型コロナウイルス感染症対応 事業継続計画（BCP）」を策定し、順次更新を実施しております。

この事業継続計画（BCP）とは、感染予防対策にはじまり、感染者発生時・解除までのプロセス・課題・解決策を文書化し、全職員が共有するものです。

特に感染者が発生した場合の対応に関しては、「どんなに計画を定めていても想定外の事

態が断続的に発生をする」と、実際に感染者が発生した施設からの事例報告を参考に策定をしています。

今後は、はぐるまの会が所属する、きょうされん、日本知的障害者福祉協会（神奈川県知的障害施設団体連合会）、神奈川県社会福祉協議会等の全国団体を通して、最新情報の収集や先を見越した要望提出等を実施して参ります。

【コロナ禍による影響及び社会動向について】

行政の方針として、法人の運営に支障をきたさないよう、感染者の発生の有無に限らず、予防的な観点からの施設利用自粛等に該当する場合に関しても、できる限り従来の算定（報酬）を可能とし、収入を保障するとしています。

はぐるまの会では、この方針を最大限に活用し、3月～5月の収入を2割減程度までおさえ、かろうじてプラス収支となりました。元々100%の利用率を誇る自慢の仲間たちあつてのはぐるまの会でこの状況ですので、地域を同じくする他法人に至っては存続そのものが危ぶまれる危機に直面しています。

その他にも、全国の障害福祉事業所と共に「仲間たちの命と暮らしを守るための要望書」を提出していますので、一部ご紹介いたします。

①感染が疑われる場合のPCR検査の実施
（全対象者の迅速な検査の実施）

②グループホーム等への医師・看護師及び

応援職員の派遣と宿泊等、隔離場所の確保

③マスク・消毒液・防護服等の提供

④在宅障害者への公的な支援（治療・療養場所）

⑤福祉従事者に対しての差別や偏見への注意喚起 などなど…

多くの課題が山積をしておりますが、社会インフラの一端を担う福祉従事者の意地を見せる機会と捉え、仲間たちの力を借りて明るく前向きに日々の暮らしを大切にしていきたいと思えます。

コロナに負けるな！社会福祉！

「むやみに怖がってはいけないと理解をしているつもりだけど、やっぱり怖い…」

「大好きな仕事だけど、家族には辞めるように言われている…」

この言葉は、現役施設職員達の言葉です…私達が当法人での勤務を開始した17年前、【支援員】という職業を理解している人は皆無でした。

現在、はぐるまの会では若者から大ベテランまで多くの支援員が誇りを持って勤務をしています。もちろん、はぐるまの会の主人公は、これからも仲間たちであることは一切変わらないのですが、日々の暮らしを支え続けている職員へも応援をいただけると何よりも励みとなりますので、是非お声掛けをお願いします。